

令和5年度第6回南相馬市小高区地域協議会 会議録

- 1 日 時：令和5年9月21日（木）
午後2時00分～午後4時00分
2 場 所：浮舟文化会館 研修室

【出席委員名 13名】

会 長	林 勝 典	委 員	小牛田 一男
副会長	阿部 貞康	委 員	末 芳 治
委 員	末永 義人	委 員	飯 塚 宏
委 員	小林 友子	委 員	杉 重 典
委 員	半谷 善弘	委 員	半谷 恵美子
委 員	渡邊 静子	委 員	志賀 由紀夫
委 員	堀内 洋伯		

【欠席委員 2名】

委 員	西山 喜代子	委 員	本田 博信
-----	--------	-----	-------

●南相馬市職員

小高区役所長	佐々木 忠
小高区地域振興課長	佐藤 克巳
小高区地域振興課おだかぐらし担当	志賀 和浩
小高区市民総合サービス課長	高野 真至
小高区地域振興課自治振興担当係長	安部 良一
小高区地域振興課副主査	大場 優

1. 開 会

○事務局

只今より令和5年度第6回小高区地域協議会を開催いたします。本日の会議の成立要件につきまして、事務局より報告を申し上げます。

本日の欠席委員は、西山 喜代子委員、本田 博信委員です。地域協議会委員15名中、13名の出席ということで、過半数を超えております。協議書10(2)により、本日の会議は成立しております。初めに、林会長からご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

小高区地域協議会 林会長よりあいさつ

3. 議 事

○事務局

議事の進行については、規定により、会長が会議の議長となります。林会長、よろしくをお願いいたします。

(1) 議事録署名人の指名

○林会長

それでは、次第により議事を進めてまいります。

はじめに、会議録署名人の指名ですが、会議録署名人は、杉 重典委員、半谷 恵美子委員の2名にお願いします。

(2) 協議事項

協議事項

小高区地域協議会委員提言の内容について

○林会長

それでは、協議事項「小高区地域協議会委員提言の内容について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

事務局より 資料1-1により説明

○林会長

協議に入る前に、本日の進め方の説明と、意見書の最終的な調整について皆様にお伺いしたいと思います。

委員の皆様からご提出いただいた提言案について、1件1件協議をし、意見書に記載するか、記載を見送るかを決定したいと思います。なお、記載

することが決まった提言案について、最終的に意見書にまとめるための調整については、本日の協議内容を踏まえ、会長・副会長・提言案の提出者に一任していただくかたちで、進めてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

ありがとうございます。意見書については、市に提出する前に、皆様にご確認いただきますので、よろしく願いいたします。

○林会長

それでは、阿部委員の提言案「義務教育学校設置の検討」について、ご協議いただきたいと思います。

○堀内委員

義務教育学校の設置については、4つの小学校が統合する際に話題に上がっていたのですが、小高小・小高中のどちらの校舎を使うか、または旧小高商業高校の跡地に新しい校舎を建てるか、という話があって中途半端になっていたような記憶があります。

教育委員会として、今後どのような方針で進めていくのか、いまいちよくわからない部分があります。

○事務局

それについては、資料1-3をご覧くださいと思います。前回の会議で、担当課からご説明させていただいたのですが、今後の方針としましては「小中一貫校をも含めて義務教育学校の設置について検討をしていく」としております。

○堀内委員

現在も小学校・中学校で交流授業や、英語教育なんかもやっているようですが、具体的な進展性が見えない、将来どのような形に持っていくのか見えない、というところがあります。

最終的には校舎の場所だと思います。現状の校舎をそのまま使うのか、別な場所に新しい校舎を建てるのか、だと思います。

○林会長

今回はこの提言案を意見書に記載するか、見送るかについて決めていきたい。現状、市でも義務教育学校の設置を検討しているという状況ではあ

りますが、それをさらに進めてもらうため意見書に記載するのか、記載を見送るのか、結論が必要です。

○末委員

資料1-3の現状認識のところに、義務教育学校のデメリットとして「小学校高学年時において、リーダーシップや自主性を養う機会が減る」とあるが、そんな大きな影響があるのかがわからない。震災後、義務教育学校を導入しているところが多々あると思うが、そんなデメリットがあるのであれば導入するのはどうかと思うし、実際どうなのかよくわからない。

○林会長

現状、すでに一緒に小学校と中学校が合同で行事を行ったりしているので、取り組みとしてはスタートしている。なので、その取り組みをこのまま伸ばしていく格好になると思っている。

○阿部委員

先ほど堀内委員の話にもありましたが、小学校と中学校を一緒にするという議論の中で、校舎をどうするのかという話があった。旧小高商業高校のところに立てるとなると費用が膨大になるし、せっかく耐震工事をした小学校・中学校が無駄になる。そんな話でうやむやになった。あの時は、「4つの小学校を1つにして教育活動をやっていきましょう」という話がメインだったので、義務教育学校の話までたどり着かなかった。

ただ、いまの状況を考えると、小学校の運動会に中学生が来てお手伝いをしたりしているので、校長先生が1人で、必ずしも6年・3年という学年の分け方でなく、6年生の授業には中学1年生の授業を取り入れてもいいわけです。末委員から質問があったリーダーシップの件についてですが、それについても義務教育学校としての学年形成があり、指導ができるわけですから、デメリットというほどではないと思います。

いまのうちにこういう提言をしておかないと、南相馬市の学校施設は「生徒数が少なくなったところをどうしようか」ということしか考えていないのでしょから、「小学校と中学校が1つずつになったからそれでいい」ということで、いつまでもそのまま置かれてしまうのではないかと思います。

いつまでも今のままの小学校・中学校ではなく、小高にあったいい学校にしていくためには、義務教育学校を設置して、小学校・中学校を生かした教育、特色ある教育という方針を持って進めていって欲しいと思い、この提言を出しました。

商業高校の跡地を、市としてどう活用していくのかというところでも変わってくると思いますが、その辺も何も示されていない状況ですので、当面、小学校と中学校を一緒にして教育活動を行っていただきたいな、と思っています。

○林会長

小高区はいま、こども園・小学校・中学校が1つずつになっています。飯館村はすべて一貫にして1つの建物に集約しています。小学生用の体育館と中学生用の体育館を作って、400mのトラックもあってという、素晴らしい施設を作っている。小高はそこまではいかないが、「検討中です」で終わるのではなく、「本当に検討してください」ということを小高の地域協議会としては提言すべきだと、私は考えますが、いかがでしょうか。

○志賀委員

以前の会議で、富岡の小・中学校のお話をさせていただきました。小学校・中学校それぞれですと人数が少ないですが、一緒になるとそれなりの人数になります。多ければ多いほど、交流もありいろいろな価値が生まれてくるので、やはり人数が多い方がいいな、と思いました。幼稚園の子がバスの待機をしている間、見守っている小学生がいるんです。そういう姿を見ていると「こういう姿っていいな」って思うんです。リーダーシップの件がデメリットとして書かれていますが、これは「何かデメリットないかな」と無理やり探してきた感があります。確かにないことはないと思いますが、それを上回るメリットがあると思います。

これはまた別な話になりますが、義務教育学校を設置する際、小学校の校舎を利用して教育活動を行えば、中学校の校舎は別なことに利活用できます。なにかを引っ張ってくる際に「この建物使えますよ」ということもできる。いずれ子ども数も減ってきますので、メリットとしてはこういうこともあるのかな、と思います。私は、この提言は記載してもいいと思います。

○林会長

ありがとうございます。こちらの件については、意見書に記載するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、末永委員の提言案「小高区はあと 10,000 人足りない」について、ご協議いただきたいと思います。

○志賀委員

こちらの内容は今後の目標としてはいいと思います。この目標を達成するための手段が必要で、その手段はいろいろあるので、それを実践していく中で目標として、10,000 人という数字は必要なのかな、と思います。

○林会長

提言として意見書に記載するには、少し抽象的な内容ではありますよね。あくまでも目標なので、意見書に記載する内容としては、少し違うのかな、と思いました。

○林会長

末永委員に提出いただいた提言案については、意見書への記載は見送るかたちでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、小林委員の提言案「JR 常磐線小高駅の停車数と時刻の変更願いを市に申し入れて欲しい」という件について、ご協議いただきたいと思います。

○末委員

産業技術高校に通っている生徒がだいたい 500 人前後いるかと思いますが、それ以外に一般の乗降客はどれくらいいるのでしょうか。我々だって、高速が無料ということもあってほとんど電車を利用しない。本数を増やしてほしいとか、そういうことを要望するのであれば、もう少し利用者を増やすような呼びかけもしなければだめだと思う。どこの市町村でも、JR の利用者が減っているので、「まず地域の人が利用しよう」という運動をしている。地元の住民も月に 1 回電車を利用するとかしないと、JR だって利益目的で走らせているのだから。

○小林委員

小高駅は券売機ではなく、乗車証明書発行機が設置されているんです。だから正確な乗車人数が把握できないし、変な話キセルもできてしまうんです。Suica も使えないし。そういうところの整備をしていただいて、正確な数値を把握したうえで判断しているわけではないので、やることが中途半端なんです。

○末委員

鹿島駅も同じような感じなのか。

○半谷（善）委員

そうです。簡単な話、磐城太田駅と桃内駅の間は無料で自由に乗り降りできるということです。

○志賀委員

Suica については、使える区間と使えない区間があってすごくわかりにくい。私、時々駅に行くのですが、Suica の機械について「これどうやって使うんですか」ってよく聞かれます。それで「仙台方面は Suica 使えるけど、東京方面は Suica 使えないよ。あなたはどこに行くの？」って聞いて対応したりしています。

○林会長

電車の本数を増やすというのは、小高に住んでいる人の利便性を上げるということだけでなく、外から人を呼ぶためにも重要なんです。利用者数を上げるためには、外から人を呼ばなくてはならない。人呼ぶには、小高駅が利用しやすい駅でないといけない。利用する人が少ないからダメではなく、「この地域をどうやって復興させるか」ということを考えたときには、「小高駅の利便性を向上させる」ということが重要なので、ぜひお願いしたい。

○堀内委員

常磐線が震災後にどう変わったかという、いわき駅～仙台駅間の直通がなくなったことと、朝と夜の特急がなくなったこと。それによって、利用者が減ったというのはあると思います。小高駅と同じ無人駅の、浪江駅・双葉駅・大野駅は特急が止まります。なぜ、小高駅には止められないのか。南相馬市から要望を上げて、JR としては、仙台支社と水戸支社で管轄が違うので、浜通り一帯で特急停車の要望と電車の増便の要望を出さないと、

たぶん通らないという話があった。なので、これはダイヤ改正を含めて、協議会の意見として出すべきだと思います。

○林会長

ありがとうございます。小高の復興を考えたときには、便利な方向に持っていくための要望は出していいと思います。

○半谷（善）委員

特急については増便ができないのであれば、いま走っている特急を小高駅に停車させる、ということであればそれほどハードルが高くないのではないかと思います。

○林会長

市が出している小高駅への停車については、増便という内容で要望しているのですが、それとは別に均等な時間の中で運航できるようにして欲しい。いわき駅～仙台駅を行ったり来たりするようなかたちの運行でも構わないので、これについては市から強く申し入れて欲しい。

○小高区役所長

市としましては、福島県鉄道活性化協議会や常磐線活性化対策協議会を通じて、毎年 JR に要望を出しております。加えて、市議会からも同様の質問を受けてその都度、連携して要望活動をしています。ただ、JR 側の意見としては、末委員からもお話があった通り、営利活動としてやっているもので、要望に応えることがなかなか難しいという回答をいただいているところです。

しかし、市としましては小高区の復興に必要なことだと認識しておりますので、要望については関係自治体と連携して継続していきたいと考えております。

○林会長

JR 側には利益だけでなく震災被害のあった地域を盛り上げるために、走らせるということも考えて欲しい。私鉄なんかは、自分で町を作るために路線を延長していく。そこに住んでもらって、鉄道を利用してもらうという手法をとっている。都会はそうやって町が作られている。JR はかつて「国鉄」と言われていたわけなので、国民のために検討をして欲しい。

こちらの提言については、文言を検討しながら意見書に記載するということがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、西山委員の提言案「地元で活躍する若者が増えるために」という件について、ご協議いただきたいと思います。

○林会長

子育てしやすいということであれば、こどもを生むたびに支援が手厚くなるような制度を設ければいい。どちらかの親だけが働けば、支援を受けて子育てだけしていれば生活できるだけの手厚い支援をすれば、移住者も集まってくると思う。それと、お産等にかかる費用を負担してくれるような制度があれば、人は入ってくると思う。ただ財政的には大変だと思うので、そこは考えなければならない。皆さんどのように考えますか。

○阿部委員

これについては、小高区に限った話ではなく南相馬市全体で取り組まなければならない問題です。その上で、小高区・原町区・鹿島区でそれぞれ特色を持たせなければ。特に小高区は人口も極端に少なくなっているわけですから、バランスを取りながらも、重点的に考えてもらわないと。

「子育てしやすいまち」といっても、小高区だけの補助制度はないですよ。あとは企業誘致するといってもどのくらい進捗しているかわかりませんし、またその企業がどんな会社で、どのくらいの人を雇えるのかもわかりません。まずは、全体として子育て、企業誘致はやっていただいて、その中で小高区にどのような特色を持たせるのかという方針を示していかないと、難しいのではないかと思います。

○堀内委員

市の方で子育てに関する「3つの無料化を実施」というポスターを作りましたよね。「日本子育て支援大賞」のポスターです。あの内容って、市外にどのくらい浸透しているんですか。そういう情報発信も南相馬市の大きな課題なのではないでしょうか。

○林会長

若い人を集めるための仕事の確保は、南相馬市だけでなく相双地区全体の課題だと思う。企業誘致するための工業団地の計画だが、それによってどれくらい労働人口を増やせるのかというのは、まったく数字は出ていない。

○小高区役所長

市としては積極的に子育て支援を行っていきまして、一定程度評価はいただいております。それが後々、移住・定住やIターン・Uターンに繋がっていくんだと思います。ただ、それはあくまでも南相馬市全体の話で、小高区に特化したものではありません。小高区役所として課題だと思っているのが、人口が震災前の3割程度に留まっていることに加え、高齢化が進んでいることです。移住・定住を含めて、若い人をどうやって小高区に引き込んでいくのかということを考えていますので、例えば商工労政課やこども家庭課、移住定住課と連携して、今後必要な対応を取っていきたいと思っています。まちづくりの根幹だと思っていますので、時間をおかずに、小高区役所としては情報発信をしていきたいと思えます。

○林会長

西山委員からの提言案については、子育て支援としてやっている施策については継続していただき、働く場の確保という内容については、移住定住に直結する問題ですので、スピードを上げて取り組んでいただきたい。こういった内容で提言書に記載することでいかがでしょうか。

○志賀委員

いいと思います。先日 F-REI の勉強会に参加したのですが、これだけの施設ですので、雇用する人、外国から来る人がたくさんいます。そうなったときに住むところはどのようにするのか聞いたところ、そういう方については、一カ所にまとまって住むのではなく、様々な地域に分けたいんだ、というお話をしていました。そういう話でしたので、間髪入れずに意見書を出しながら、小高区に住んでもらうように話をしていくのは大切だと思います。

○林会長

それでは、こちらの提言については意見書に記載するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、渡邊委員の提言案「高齢者(独居者)の見守り隊、パトロール隊の配置」について、ご協議いただきたいと思えます。

○林会長

現在も、要支援者名簿なんかがあったりして、行政区長や民生委員が要支援者の見守りや支援に取り組んでいるわけですが、なかなか家庭の中まで入っていくというのは難しく、家の外から見守る、隣近所から話を聞くということしかないのかな、と思っています。区長や民生委員ではなかなか回り切れないので、近所の人に見てもらわなければならない。

○志賀区長

先日の台風の時に、私も区長をしているので見回ってきたのですが、危ないところはわかるんです。用水路が近いとか、いつも冠水するとか。そんな時にテレビのCMか何かで見たのですが、家の中で人の動きを感知して安否確認をするシステムがあるようです。そういうものをつければ解決するのかなと。それは別な話ですが、やはり近所の人同士で見守りするのは大切だと思うと同時に、そういう仕組みの導入も検討してはどうかと思います。

○林会長

小高行政区でも IT に詳しい方に入っていていただいて検討しています。腕に脈拍を感知する機械をつけて、異変があったら知らせてくれるものです。現在も緊急通報システムはあるが、ひとり暮らしの人に何かがあっても、本人では対応ができないと思う。それでは意味がないので、そういったことも検討している。GPS をつけて移動したところもわかるようにするとか。しかしそういったことはプライバシーの問題もあるので、そういったことへの配慮が必要になってくると思う。

○市民総合サービス課長

こちらの件について資料1-3の今後の取組方針に「緊急通報システムの利用促進」と記載しております。緊急通報システムも無料のものから有料のものまであるのですが、有料のものについては赤外線システムがついているものもあって、一定時間動きがないと自動的に事業者へ通報が行き、事業者から民生委員等に連絡が行くようになっています。通報システムも、備え付けのものと携帯できるものとあります。赤外線のものについては1日～2日動きがなければ通報されます。通報があつて死亡されていたというケースは今までありません。旅行等で不在にされていたというケースはありました。

○渡邊委員

旅行に行く際は、事前に連絡しておく必要があるのですね。

○林会長

タブレットを使用している人に聞いた話では、通報するためのボタンが小さすぎるという話だった。

○末委員

資料1-3に「小高区健康支援連絡会」と書かれているが、これはどんな団体なのか。

○小高区市民総合サービス課長

これは、小高区市民総合サービス課・社会福祉協議会の生活相談員・小高診療所の職員など、公を担う職員が、お互いに持っている高齢者の情報を共有するために行っているものです。

平成28年か29年頃に発足して、年に3回～4回開催していたのですが、最近は開かれていないというのが現状です。保健センターが事務局をしているので確認をしたところ、この連絡会自体は生きていて、何かあれば招集をかけるとのことでした。

○末委員

こういうことは、自分が対象となる状況になってみないと、どんなところで不都合を感じるのかわからない。

○林会長

普段から行政区の中で集まりがあったりして顔を合わせる人はいい。女の人でもサロンなんかがあると参加するが、男の人は特に集まりやサロンに顔を見せない人もいたので、こういう人の見守りや安否確認が難しいところはある。

市としてもいろいろ取り組みはしているが、なかなか難しいもんだいです。しかしながら、小高区地域協議会として提言する内容としては、そぐわない部分があるのかな、と思いますので、今回は見送るかたちでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、堀内委員の提言案「小高駅前周辺の立木樹木の定期剪定について」、「小高駅自転車置場の放置自転車対策について」、ご協議いただきたいと思います。地元である、五区行政区長の志賀委員や小林委員の意見はどうでしょうか。

○小林委員

浜風がすごいので、樹木があると和らぐというところもあります。松林がなくなってしまっていて、直で風が来るので、伐採ではなく剪定くらいにとどめていただきたいです。

○志賀委員

駅前の木の管理については、低い木は2～3年前から市に要望して剪定してもらっていて、今年もやっているはずです。高い木については、小林委員からお話があったようなこともありますし、シンボリックな意味合いもあると思います。ただ枯葉がバサッと落ちるので、どうするのかということですが、行政区で報奨金を受けながら、管理をするというやり方もあるということが分かりましたので、これについては行政区の役員会等で話をしてみようと思います。

結論としましては、高い木については伐採するのではなく、シンボルとして管理することとして、低い木については引き続き剪定をしてもらいながら、なんとか対応をしていこうと思います。

○林会長

それでは立木の件については、地元の皆さんの意見を尊重して、意見書には記載せず、行政区の方で検討を進めていただきましょう。併せて自転車の件についても、現在、市で取組を進めている途中ですので、意見書への記載は見送るかたちでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、杉委員の提言案「資源ごみ集積所の変更」について、ご協議いただきたいと思います。

○小高区市民総合サービス課長

原町区と同様に、各ごみ集積所で資源ごみを回収する方式にしますと、業者との調整はもちろん、かなりの予算確保も必要になります。鹿島区についても小高区と同じ方法で資源ごみの回収を行っておりますので、小高区で変更するとなると、鹿島区も同様に…ということになるかと思います。変更を希望するのであれば、南相馬市区長連絡協議会が定期的にごみ集積所の管理に関する会議をしておりますので、そこで検討するのが現実的かと思います。

○林会長

燃えるごみなどと同じ場所で回収するとなると、それぞれのごみを回収日の早朝にきちんと出してもらわなくてはならない。そうでないと、いろいろなごみが混ざってしまう。そうならないように、ごみ番号の記載を徹底するとか対策をしっかりとしないと、管理できなくなる。

○杉委員

高齢者の方の負担軽減になればと思い、出させていただいた提言案ですので、区長会の方でご相談いただけるのであれば、お任せしたいと思えます。

○林会長

それではこちらの提言案については、意見書への記載は見送るということでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、志賀委員の提言案「空き家のリノベーション」について、ご協議いただきたいと思えます。

○志賀委員

こちらの提言案については、取り下げたいと思えます。先日、実際にリノベーション予定の空き家で、ミライエのイベントがあったので行ってきました。まさに私がやっていただきたいと思っていたことだったので、市で引き続き取り組んでいただければと思えます。

○林会長

提言者である志賀委員より、取り下げの意見がありましたので、記載を見送るということでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○林会長

次に、志賀委員の提言案「薬局の誘致」について、ご協議いただきたいと思えます。この薬局というのはドラッグストアということでもよろしいでしょうか。

○志賀委員

そうです。ドラッグストアを出店する会社も、当然利益を追求していますので、儲からないところには出店しない、という話もわかります。いろいろ検討していて思い出したことがあるのですが、富岡町にダイユーエイトが出店した時に浅倉社長が「儲からないけど出店しましたが、いずれ…」という話をしていた。浪江町にイオンが出店した時も、副社長が同じような話をしていた。先のことを見据えてやっているんだと思います。

ドラッグストアの利益構造も考えて、粗利がとれるような価格設定でもいいから出店してもらいたい。また、先に話したダイユーエイトもイオンも、町で建物を提供した経過がある。同じようなことが出来ないでしょうか。F-REI や工業団地のことを考えると6号線沿いの川村自動車さんのところがいいのですが、信号のところだから車の出入りが厳しいかなど。要はドラッグストアが稼げる仕組みをこちらで作って提供してあげないと来ないと思う。そういうことも検討するとともに、市長によるトップセールスをお願いしたい。

○堀内委員

市としてどういう方針かわかりませんが、小高区に産業団地作ります、工業団地作りますという話がありますが、市としては小高区への商業施設の整備は完了しているんですよ。小高ストアのオープンの際に、市長がそんな話をしていたと思います。現実としては買い物するにしても、飲食店を探すにしても不便なことばかりです。4月からは日曜日も営業するようになりましたが、品揃えがよくない。ドラッグストアに限らず飲食店なんかもあると、もっと小高のまちが活性化すると思います。

○末永委員

ツルハの方とつながりがあるので、小高区への出展について話をしたのですが、結論から言うと「嫌だ」と。人が少ないし、立地もちゃんとしたところがない。その辺をちゃんとしてくれるなら考えてもいいが、いまのところは嫌だと。

なぜ浪江町に薬王堂が出店したのかというと、あれは浪江町の町長と国の役人が本社へ行って「お願いします」という話をしたかららしいです。けっきょくは上からの依頼が必要なのだと思う。

○志賀委員

売っている商品や強い商品、本社がどこになるのかなども考えた上で、狙う会社をきちんと絞っていかないといけない。

末永委員の話にもありましたが、やっぱり「副市長」が行ってもダメなんです。トップが行かないと。市としての意気込みというか、そこに我々がついていけば、という思いがあります。それでもダメなら…というところもあります。なんにせよ、いしょくじゅう（いは医療の医）は生活の基本なので、この件についてはしっかりと提言していかなければならないと思う。

○小高区役所長

市としましては、今年度に入ってから区役所と副市長と一緒に、本社の方へ行きまして、いろいろとお話をさせていただきました。その中で、補助制度についても説明をしました。加えて、小高区の方へお越しいたいただき、現地の視察等もさせていただきました。

○志賀委員

彼らは顧客データなんかから、その土地で採算がとれるか分析しているはずなんです。ツルハにしても薬王堂にしてもバックデータはあるはずなので、そこにどれだけ小高の顧客がいるのか、それ以外にどれだけ集客ができるのかわかっていると思います。そこに突破口を生み出さないといけないのですが、そこは知恵と押ししかないと思います。

○林会長

皆さん、いろいろご意見はあるかと思いますが、こちらの件については意見書に記載するというところでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

4. その他

○林会長

5. その他に移ります。

その他(1)

次回会議開催について

○林会長

次に、その他(1)「次回会議開催について」を議題といたします。事務局よりお願いします。

○事務局

次回の地域協議会ですが、令和5年10月19日（木）午後2時から開催を予定しています。詳細が決まりましたら、事務局より通知にてご連絡いたします。

○林会長

他に何かありますでしょうか。なければ進行を事務局にお返しいたします。

5. 閉 会

○事務局

以上をもちまして、令和5年度第6回南相馬市小高区地域協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

令和5年度第6回小高区地域協議会会議録

小高区地域協議会長 林 勝典

会議録署名人 杉 重典

会議録署名人 菅谷 恵美子